

ヤマノイモ保有系統の特性維持と種苗生産

ヤマノイモは、兵庫県の特産物として丹波地域を中心に栽培されている。現在、北部農業技術センターでは9系統を保有し、農産物原原種栽培事業(野菜)により、各系統の特性維持と種芋生産及び産地からの要請に応じた種苗の有償配布を行い県内産地の維持や活性化を図っている。

内 容

ヤマノイモは、粘りが強く風味が良いため、江戸時代初期から丹波地域で栽培が始まり、江戸時代末期には篠山藩主に献上されるなど、長い歴史をもっている。兵庫県では、昭和30年代初期に県内各地で代々受け継がれてきた系統の整理と凹凸が少なく、丸みのある芋の選抜を行い、昭和33年～34年に「アオヤマ」「タカシロ」「ミタケ」及び「ニシキ」を育成した。さらに、昭和52年に「ニシキ」より「秀丸」を、平成7年には「アオヤマ」より、収量及び秀品率の高い「青波」(写真)を育成した。

現在、丹波地域で栽培されているヤマノイモの約80～90%を兵庫県の育成した「アオヤマ」「タカシロ」及び「青波」が占めている。当センターではこれら6系統に「ウゼンマル」「キヌガサ」及び「兵た系28号」を加えた9系統について、特性維持(表)と種芋の生産を行っている。

毎年、当センターで生産した種芋は、県内

各地のJA部会や営農組合等からの種苗配布申請により有償譲渡している。譲渡された種芋は、各産地で増殖栽培を経て生産者に供給され、産地での系統の統一や収量・品質向上の一翼を担っている(図)。

今後の方針

今後も県の特産農作物であるヤマノイモ各系統の特性維持と県内産地への供給を継続するとともに、栽培改善に取り組み、産地の振興を支援する。

小谷 良実(北部 農業・加工流通部)
(問い合わせ先 電話：079-674-1230)

表 本県育成の主な系統の特性

系統名	形	表皮の色	その他特徴
アオヤマ	角丸	黒褐色	収量多
タカシロ	角丸	淡黒褐色	
秀丸	丸で乱れ少	褐色	ほほう 萌芽が他系統より約10日遅い 梨肌
青波	大きく 外観良好	黒褐色	収量多



写真 優良系統「青波」

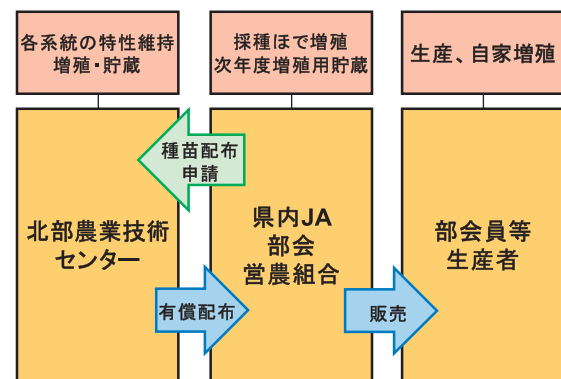


図 種苗の生産・供給の流れ